

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和 8年3月1日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>以下のⅠ～Ⅳのいずれであるかを記載した上で、研究テーマを明記する。</p> <p>Ⅰ. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>Ⅲ. 都道府県・市町村間の連携に関すること</p> <p>Ⅳ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>Ⅳ-①「日本語指導の更なる充実」</p> <p>日本語の習得が十分でない外国籍の生徒を多く抱える夜間学級において、一番の課題は日本語指導である。また、教員には異動が伴うため、配属された教員に一定以上の日本語指導力を維持させることも喫緊の課題となっている。そこで「日本語指導の充実」を本調査研究の一番大きな柱として設定した。</p> <p>Ⅳ-②「全教員による授業改善による各教科指導の充実」</p> <p>日本語指導を充実させ日本語の習得が効果的に行われることで、教科指導をより早いタイミングで始めることができ、教科指導の時間をより確保することができる。また、学び直しの生徒も夜間学級に在籍していることを考えると、教科指導の充実も日本語指導の充実とともに推し進めていかなければならない。よって、「教科指導の充実」を本調査研究の2つめの柱とした。</p> <p>Ⅳ-③「本夜間学級の周知と在籍生徒の負担軽減」</p> <p>新設校であり設備が充実している本校の強みを来年度も広く周知することで、今まで施設面で入学を断念していた生徒へ学習の場を提供していくことを引き続き実施していく。そして、多くの生徒が通学することになると、今年度以上に、発達を含めた様々な障害のある生徒が夜間学級に通学してくることが予想される。本夜間学級での教育活動において、そういった生徒の負担となる要素を取り除くことにより、周りの生徒の心の成長と教育活動の充実を図ることができると考え、「本夜間学級の周知、生徒の負担軽減」を本調査研究の3つ目の柱とした。</p> <p>Ⅳ-④「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現に向けた取組」</p> <p>さらに、東京都において、昼間部通常の学級、軽度の知的障害等</p>

	<p>特別支援学級（固定学級）、夜間学級の3つの学級が併設されている中学校は本校だけである。その特長を生かした教育活動を推進することで、「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現」を図ることを本調査研究の4つ目の柱とした。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>上記①～③の具体的な内容を以下に示す。</p> <p>IV-①「日本語指導の更なる充実」</p> <p>(1) 共通教材及び習熟度別少人数学級編成のための判定試験の更なる充実</p> <p>教員の異動によって新しく配属された教員（新規採用教員を含む）が日本語の指導を行わなければならない現状を考え、令和6年度は、日本語学級のクラスの指導を「共通教材」「漢字」「読み」「会話」「作文」に分け、それぞれの指導時間数分の教材を独自に作成してきたが、今年度は、実際の授業実践を経て改善点を洗い出し、大幅にブラッシュアップした。特にメイン教材となる「共通教材」は、市販の教材「大地」をパワーポイントで作成し直し、どの教員が授業をしても一定レベルの指導ができるICTを活用した視覚教材となるようにした。またそれぞれの視覚教材には、教材内で使われている名称等の音源や文章の音読なども加え、聴覚優位の生徒にも対応できるよう工夫した。日本語に初めて触れる生徒への教材として、語彙習得を目標とした本学級の最も基本的な日本語教材（60回分のパワーポイント教材／約1150枚）も作成・活用してきたが、今年度は授業での生徒の反応を見ながら大幅にブラッシュアップを加えた。</p> <p>日本語の習熟度別少人数学級を編成するための判定試験においても、作成した複数の判定試験のレベルが適正であるか、難易度に偏りはなく、クラス編成の基準自体が適正であるか、判定試験の実施時期が適切であるか等の検討を加え、より精度の高い日本語の習熟度別少人数学級編成の体制を構築した。こうすることで、昨年以上に日本語の習熟度による適切な学級編成が可能となった。主な生徒の声として、クラス分け判定試験にむけて、なるべく高得点を取り、より上位のクラスへ移りたいという気持ちが多くの子に芽生えた。また教員の反応として、学力レベルがより均一化することによって指導効果も高まり、昨年度よりも日本語の習得速度が上がった実感をもつ声が多く聞かれた。</p> <p>(2) 講師を招聘した日本語指導に関する研修の充実</p> <p>本夜間学級においては、上記に示すように、ここ2年間で日本語指導についてのカリキュラムを一新し、教材の共通化、根拠のあるクラス分け判定試験の作成等を行い指導の充実を図ってきた。しかし、入級してきた生徒の日本語の習得状況は、教科教育を行うには十分でない場合が多く、卒業までの限られた</p>

時間の中で効果的かつバランスよく日本語を習得させるには、日本語教育の中だけでなく教科教育の中での日本語指導を充実させる必要があることが課題として浮かんできていた。そこで今年度は、教科教育を通じて日本語指導を行うJSLの充実をはかるべく、経験が豊富でJSLの実践に長けている講師を招聘し、日本語指導の向上に努めた。講師の先生には本校の日本語指導について概要を説明し、実際に授業観察をしていただきながら、それを踏まえてJSLの指導法について講義していただいた。

実際には、国語科及び英語科、及び特別の教科道徳において、JSLを活用した研究授業を実施し、指導講評をしていただいた。特に英語科では母語での授業を行った後に同じ内容で日本語の授業を行うことで、英語と日本語の両方で書く力の向上が見られた。また、それぞれ母語としない言語での活動に興味をもつことが観察され、お互いが不足している部分を補い合い内容を理解していく様子が見られるなど、一定の効果があったと感じる。

#### (3) 個別の指導計画の作成とそれを活用した指導実践

本校の夜間学級在籍生徒に対し、個別の指導計画を作成し一人一人の学習状態に応じたきめ細かな指導につなげ、目標や指導内容、生徒の様子について関係者が情報を共有した。また、年2回の教員による生徒情報交換を丁寧を実施・共有することで、校内の教職員の共通理解や校内体制づくりに役立てるとともに、集団の中での個別的な配慮・支援についても検討を加えた。そして、教員自身が自らの指導を定期的に自己評価することで、より適切な指導の改善につなげることができた。

#### (4) 令和7年度の教育課程を踏まえた研修の推進

視覚的教材やICT機器（タブレット）を活用した指導を行うことは、日本語の習得において一定の効果がある。こういった機器を抵抗なく使いこなせるよう、区から派遣されたICT支援員に講師をお願いし、ICT機器（タブレット）内にあるアプリの使い方を学び、日本語指導の一層の充実につながる研修を実施した。また、Copilotに代表されるAI関連のアプリの使い方を学びながら、AIを活用した教材作成や授業改善等に役立てるとともに、教員の労働時間の短縮を目的とした働き方改革につなげた。

そして、上記（1）から（4）の実践をリーフレットにまとめ、都内の夜間学級や区内の中学校へ配布するとともに、区の研究指定校を受けた昼間部の研究発表の際に同リーフレットを配布し、夜間学級での研究実践の成果を広めた。

#### IV-②「全教員による授業改善による各教科指導の充実」

今年度より、東京都夜間中学校研究会（以下、都夜中研と略す）の各教科で研究主題を決め、その主題に沿って、1年間研究を推し進めていくことになった。本夜間学級の教員においても、理科及び日本語の教科班会の班長を務めることになった。本学級での教科指導の充実においては、この都夜中研での研究を中心に据えることとし、理科と日本語においては、積極的に研究授業を行うこととした。それ以外の教科においても、すべての教員がいずれかの教科班会に属しているため、年1回の研究授業を通してそれぞれの授業改善に役立てた。なお本夜間学級教員が班長を務めた2つの教科の研究内容は次の通りである。

理科では、授業の中で日常生活で体験する現象を多く取り上げ、科学の知識を身近に捉えさせる工夫をした授業づくりの研究を行い、生徒の状況に合わせて教材を開発することで、理科を身近に感じさせることができ一定の成果を上げることとなった。日本語では、各夜間学級で行われている最初期の日本語教育の特長や利点を共有し、各校での実情・実態にあうように改善することで夜間学級全体での日本語教育が充実する」という仮説のもと、日本語最初期教育法を確立するための研究を行い、情報や教材を共有して、日本語の最初期教育の充実を図ることができた。

このような活動を通して、それぞれの使用教材の共有化や情報交換を率先して行うことで新しい学びと発見につなげ、各教科指導の充実を推し進めた。と同時に、多様な学習歴をもつ生徒同士が話し合い活動等を通して学び合い教え合うことで、教科指導の充実を図ることができた。

#### IV-③「本夜間学級の周知と在籍生徒の負担軽減」

本校は新設されて3年目の中学校であり、エレベーターが2基設置されている等、バリアフリーに対応し、東京都にある他の夜間学級に比べ施設面や設備面で充実している。実際問題として、この2年の間に、車いすで通学している生徒、半身にまひが残る生徒、足腰が弱く長時間歩けない生徒、聞こえに障害のある生徒等が入学してきている。上記のように、23区に設置されている他の夜間学級ではいずれも対応ができず、十分な教育活動が保証できない等の理由から入学を断られ、本学級に入学し、長時間かけて登校している現状もある。こういった、東京都にある他の夜間学級では施設的に受け入れることが難しい生徒の受け入れを積極的に行えるようにするために、公共機関等にポスターを作成・掲示した。また、区内の区立中学校に在籍している外国籍の生徒の進学先の一つとして、夜間学級を

検討してもらえよう、各中学校に本校夜間学級のポスターとパンフレットの掲示を依頼した。

その結果、昨年度と今年度については、12月時点で定員60名のところ、55名を超える生徒数を確保することとなり、都内の夜間学級の中で最大の生徒数となっている。新設した学校であることも加え、地域での認知度はかなり向上したと考えられる。

また、3年生が参加する京都奈良への1泊2日の修学旅行において、車いすの生徒や半身にまひが残る生徒、高齢の生徒が交通公共機関を利用した移動をした場合、見学場所に着くまでに体力の多くを消耗してしまうことが十分に考えられたため、生徒の移動手段に貸し切りバスを利用した。実施時期が9月下旬だったこともあり、加えて猛暑での修学旅行であったため、すべての生徒にとって貸し切りバスでの移動は体力の温存や回復を図るに十分な効果を得ることができた。見学場所で生徒たちはある程度積極的に行動することができたため、今後は実施時期の検討もさることながら、移動手段としての貸し切りバスの利用は必要不可欠であると考えている。また、貸し切りバスを活用することで、見学の途中で熱中症等により体調が悪化した生徒の休憩場所として活用することもできた。すべての生徒及びすべての教員からも、次年度以降の移動時における貸し切りバスの導入の声が上がっている。

#### IV-④「誰一人取り残さない教育の実践、共生社会の実現」

本校の昼間部の生徒、昼間部知的障害等特別支援学級（固定学級）の生徒、夜間学級の生徒がチームを作り、毎年12月に実施している江戸川区主催のポッチャ大会に参加した。その事前練習として、体育の時間を利用しパラスポーツに取り組んだ。参加したチームはそれぞれの学級単位で結成したが、お互いのチームの応援を行い一緒になって勝利を喜び合うことができ、同じ学校の一員であるといった一体感を生んだ。

令和7年7月17日には、昼間部と夜間学級の交流学習が行われた。夜間学級の生徒が昼間部のすべての教室を訪問し、自己紹介やクラスレク等を行い、交流を深めた。その行事の前の7月8日と10日には、昼間部の希望生徒や教職員が夜間学級の授業を見学し、夜間学級の生徒が授業を真剣に授業を受ける様子を見学した。また、11月1日に実施した夜間学級の文化祭について、昼間部の生徒会集会で紹介するなど、継続して行われている昼間部等の交流活動が実ってより効果の高いものとなってきている。

さらに、他校の夜間学級との交流の場である生徒会連合交流会には希望生徒10名が参加した。ポッチャなどのスポーツや

ボードゲーム、全体で行うレクリエーション等を他校の夜間学級生徒とともに行うことで、友情をはぐくみ交流を深めることができた。

#### 月別実施スケジュール

##### 【4月】

- ・校内研修会実施①（年間研修内容の検討）
- ・招聘する講師の検討、決定、依頼

##### 【5月】

- ・校内研修会実施②（生徒理解研修）
- ・校内研修会実施③（J S L 研修 1 / 講師招聘）

##### 【6月】

- ・修学旅行におけるバスのルート検討
- ・修学旅行生徒事前指導①

##### 【7月】

- ・昼間部と夜間学級との交流学习
- ・修学旅行におけるバスのルート決定
- ・修学旅行生徒事前指導②

##### 【8月】

- ・校内研修会実施④・⑤（I C T 研修）
- ・夜間学級周知資料の掲示開始①
- ・近隣区の広報誌を活用した周知①

##### 【9月】

- ・校内研修会実施⑥（J S L 研修 2 / 講師招聘）
- ・修学旅行事前指導（健常生徒の役割分担）
- ・修学旅行実施

##### 【10月】

- ・校内研修会実施⑦（生徒理解、特別支援研修）
- ・修学旅行の事後指導及びアンケート実施

##### 【11月】

- ・校内研修会実施⑧（J S L 研修 3 / 講師招聘）

##### 【12月】

- ・校内研修会実施⑨（J S L 研修 4 / 講師招聘）
- ・区内ポッチャ大会参加

##### 【1月】

- ・校内研修会実施⑩（本校の教育実践のまとめ）

##### 【2月】

- ・校内研修会実施⑪（リーフレット作成）

##### 【3月】

- ・今年度の研究調査のまとめ